# 岩﨑ささらししまい

所沢市の山口（西武球場の方）の岩崎地区でおこなわれている獅子舞（ししんまい）は、今からおよそ 400 年前に、岩崎村をおさめていた宇佐美長元（うさみながもと）という人が、大坂城での戦の帰りに京都で獅子頭（ししがしら）を買って、獅子舞（ししまい）の先生を連れて、村の若いひとたちに教えたと伝わっています。

「ささら（簓）」というのは、竹などで作った音を出す道具で、「ささらっこ」とよばれる子どもたちが、左右の手にもってすりあわせて音を出します。

この獅子舞（ししまい）には物語があって、さいしょは 2 ひきのおすの獅子（しし）がめすの獅子（しし）と遊んでいますが、めすの獅子（しし）をめぐっておすの獅子（し）があらそい、さいごは 3 びきで仲よくおどって遊ぶ、というものです。この獅子舞（ししまい）には、悪い病気をはらう力があるといわれていて、ささらっこがかぶっている花がさについている「ヨシノバナ」は、まよけのお守りとされ、昔は獅子舞（ししまい）のあとにもらって帰り、家の入り口にさげたといいます